

# 平城宮跡 第2大極殿跡

広大な荒地のなかにある第二大極殿跡

昭和32年(1957)11月中旬

写真撮影：福川美佐男氏



## 『奈良きたまち 異才たちの肖像』 当館資料 ID111336733

安達正興著 株式会社奈良新聞社発行

令和元年10月20日発行

「奈良きたまち」とは、「奈良まち」に対して名付けられた呼称であるが、興福寺、東大寺の門前町として南都では最も古い地区である。京都に都が移ってからは、奈良街道を通じて奈良の玄関口として栄え、平重衡の軍勢が南都攻めに通り、牛車や商人たちが行き交った街道であった。長い歴史のある土地だけに、史上知られた人物は大変多い。この「きたまち」に生まれ、あるいは生涯の大半をこの地で生きた4人の異才たちを、評伝に書き綴った。村田珠光、棚田嘉十郎、竹林高行、宮武正道。(抜粋)カバー見返し文より。当館資料ID111336733

### 第二章 大極殿に命を賭す・棚田嘉十郎(1860~1921)

死して萬世の英名有り 心のたましの光た津とし  
昭和のニコマ/大極殿映像2葉より 本文238頁



昭和のニコマ/大極殿映像2葉

↑大極殿跡で講義する若き日の故・堀井甚一郎先生(歴史地理学、奈良教育大学教授) 昭和8年 撮影 藤井辰三 『目で見ると大和路』より

↓『大極殿跡』 昭和32年11月 撮影 福川美佐男  
奈良県立図書館「奈良の今昔写真」WEBサイトより

